

2005年（平成17年）

沖縄地方の天候

平成18年1月4日 沖縄気象台

2005年の気温・降水量・日照時間	1
天候の経過（冬・春・夏・秋）	2～4
梅雨	5
台風	5～8
【参考資料】	
極値・順位値更新表	9～10
ヒカンザクラの開花・満開の状況	10
旬平均気温・旬降水量・旬間日照時間の推移	11
台風の発生数及び接近数とその平年値	12
平均気温と降水量及び台風の発生数と 接近数の経年変化	12～14

本件担当：沖縄気象台業務課気候・調査室
お問い合わせ先：098 - 833 - 2186

2005年（平成17年）の沖縄地方の天候のまとめ

（天候の特徴）

- ・ 2月は前線や気圧の谷の影響で、沖縄本島地方では日照不足、長雨となった。
- ・ 3月は強い寒気の影響で、西表島、与那国島では月の平均気温が統計開始¹以来最も低くなった。
- ・ 6月は梅雨前線の活動が活発となって、沖縄本島地方では記録的な多雨となった。
- ・ 7月以降、沖縄本島地方では、台風の接近が少なかったこともあって、少雨傾向が続いた。

1. 2005年の気温・降水量・日照時間

沖縄地方の年平均気温の地域平均²は+0.2で「高い」、年降水量の地域平均²は104%で「平年並」、年間日照時間の地域平均²は92%で「かなり少ない」となった。

沖縄地方の平均気温・降水量等の気象要素の地域平均²（比）は、那覇、久米島、宮古島、石垣島及び与那国島における平均気温・降水量等の気象要素の平均²（比）を5地点平均することにより算出している。

表1 2005年の平均気温、降水量及び日照時間

	気 温 ()	平年差 ()	階 級	降 水 量 (mm)	平年比 (%)	階 級	日 照 時 間 (h)	平年比 (%)	階 級
那 覇	23.1	+0.4	+	1947.5	96	0	1578.1	87	
久 米 島	22.9	+0.2	+	2025.0	95	0	1622.4	93	
宮 古 島	23.5	+0.2	+	2094.0	104	0	1627.9	92	
石 垣 島	24.1	+0.1	0	2328.5	113	+	1725.6	93	
与那国島	23.7	+0.1	0	2650.5	112	+	1466.9	93	-
南大東島	23.3	+0.2	+	1353.5	82	-	1975.7	95	0
沖縄地方		+0.2	+		104%	0		92%	

注）階級とは、平年との違いの程度を表すもので、「かなり高い（多い）」～「かなり低い（少ない）」の5階級に区分する。表中の記号は、+：高い（多い）、0：平年並、-：低い（少ない）を示し、太字は「かなり」を意味する。

¹ 3月の月平均気温の統計開始は、名護が1974年、西表島が1954年、与那国島が1957年である。

² カギ括弧「」は階級を示す。階級の詳細は表1の注釈を参照のこと。

(1) 気温

年平均気温の地域平均平年差は+0.2 で「高い」となり、各地点ともに平年を上回った。

月平均気温は平年より低い月があったものの平年を上回る月が多かった。

3月は強い寒気の影響を受けて、月平均気温は平年差 - 1.8 で、「かなり低い」となった。一方、秋の3か月間平均気温は、9月に入っても太平洋高気圧の沖縄地方への張り出しが強かったことなどから、平年差 + 1.0 で「かなり高い」となった。

(2) 降水量

年降水量の地域平均平年比は104%で「平年並」となった。地点別では宮古島、石垣島、与那国島で平年を上回り、その他の地点では平年を下回った。

月降水量は、1月と9～11月の期間で平年を下回り、特に9月～11月の3か月間降水量は平年比58%で「かなり少ない」となった。一方、6月は梅雨前線が沖縄近海で停滞することが多く活動も活発となったため、平年比270%で「かなり多い」となった。

(3) 日照時間

年間日照時間の地域平均平年比は92%で「かなり少ない」となった。地点別では、各地点において平年を下回った。

月間日照時間では、4月、7月、9～11月を除いて平年値を下回り、特に2月が平年比65%、6月が平年比69%で「かなり少ない」となった。地点別では、2月は那覇で平年比42%、久米島で平年比45%、6月は那覇、宮古島、石垣島、与那国島が平年比60～73%で「かなり少ない」となった。

2. 天候の経過

(1) 冬（2004年12月～2005年2月）

12月中旬までは冬型の気圧配置がほとんど現れず気温の高い状態が続いたが、12月下旬の終わり頃に冬型の気圧配置が強まり寒気が入った。その後は前線や気圧の谷の影響を受けやすく、気圧の谷の通過後は寒気が入るなど寒暖の差が大きかった。

沖縄本島地方では、2月に入ってから前線や気圧の谷の影響で曇りや雨の日が多く、日照時間の少ない状態が続いた。

冬の3か月間としては高温・並雨・寡照となった。

表2 2005年2月の日照時間及び降水量

気象官署	日照時間		降水量			
	実況値 (時間)	平年比 (%)	実況値 (mm)	平年比 (%)	日降水量1mm以上 の日数 (日)	平年値 (日)
那覇	35.3	42	172.0	137	17	11.0
名護	42.9	52	166.5	120	16	12.2
久米島	32.1	45	164.5	108	18	12.7

表3 2004年12月～2005年2月の3か月間の平均気温、降水量及び日照時間

	平均気温 ()	平年差 ()	階 級	降水量 (mm)	平年比 (%)	階 級	日照時間 (h)	平年比 (%)	階 級
那 覇	18.2	+1.0	+	311.5	92	0	223.9	77	
久米島	18.0	+0.8	+	366.0	87	0	212.7	88	-
宮古島	19.0	+0.7	+	469.0	111	+	232.1	91	-
石垣島	19.4	+0.5	+	281.0	70	-	245.2	97	0
与那国島	19.1	+0.4	+	524.0	94	0	136.3	83	-
南大東島	19.2	+1.1		332.0	107	0	335.8	98	0
沖縄地方		+0.7	+		91%	0		87%	-

(2) 春 (2005年3月～5月)

3月と4月は高気圧と気圧の谷が交互に通り天気が数日の周期で変化することが多かった。3月は強い寒気の影響を受けて、西表島及び与那国島で月の平均気温が統計開始以来、最も低くなった。4月は上旬に日照時間がかなり多かった。5月は梅雨前線が近海に停滞することが多く、曇りや雨の日が多かった。

春の3か月間としては並温・並雨・寡照となった。

表4 2005年3月～5月の3か月間の平均気温、降水量及び日照時間

	平均気温 ()	平年差 ()	階 級	降水量 (mm)	平年比 (%)	階 級	日照時間 (h)	平年比 (%)	階 級
那 覇	21.0	-0.2	0	443.5	77	-	330.2	84	-
久米島	20.7	-0.6	-	632.5	95	0	320.3	89	-
宮古島	21.9	-0.3	-	431.5	84	0	342.5	88	-
石垣島	22.8	-0.3	0	430.0	85	0	383.9	94	0
与那国島	22.5	-0.3	0	614.0	109	0	318.7	99	0
南大東島	21.1	-0.4	-	376.0	97	0	382.4	79	-
沖縄地方		-0.3	0		90%	0		91%	-

(3) 夏 (2005年6月～8月)

6月は梅雨前線が沖縄付近に停滞することが多く活動も活発となったため、記録的な大雨となり、那覇、名護、西表島では月降水量(多い方から)の1位を更新した。特に那覇では1892年の月の降水量711.6mmを113年ぶりに更新する860.5mmを観測した。梅雨明け後は太平洋高気圧におおわれて晴れる日が多く、7月から8月にかけては沖縄本島地方と大東島地方では少雨となった。一方、先島諸島は台風の影響で多雨となった。

この期間の沖縄県への台風の接近数³は4個だった(6月～8月の沖縄県への平年の台風接近数は4.4個)。

夏の3か月間としては並温・多雨・寡照となった。

表5 2005年6月～8月の3か月間の平均気温、降水量及び日照時間

	平均気温 ()	平年差 ()	階 級	降水量 (mm)	平年比 (%)	階 級	日照時間 (h)	平年比 (%)	階 級
那 覇	28.3	+0.5	+	979.0	154		548.4	84	
久米島	28.4	+0.6	+	747.0	126	+	598.6	90	-
宮古島	28.1	+0.2	+	979.5	173		579.5	86	
石垣島	28.6	-0.1	0	1172.5	197		605.6	85	
与那国島	28.1	0.0	0	1069.0	207		584.7	86	
南大東島	28.0	+0.5	+	149.5	28		712.2	100	0
沖縄地方		+0.2	0		171%			86%	

(4) 秋 (2005年9月～11月)

9月中旬から11月上旬にかけて太平洋高気圧の範囲内で晴れる日が多く平均気温は高くなった。降水量は平年に比べて少なく、沖縄本島地方は7月から続いていた少雨傾向が9月以降も続き、11月は座間味島で隔日断水を実施するなどの湯水となっている。大東島地方と宮古島地方は10月に少雨となったが、11月の降雨で解消したとみられる。

この期間の沖縄県への台風の接近数は4個だった(9月～11月の沖縄県への平年の台風接近数は2.7個)。

秋の3か月間としては高温・少雨・多照となった。

なお、12月の沖縄地方の月降水量地域平均平年比は、105%となった。

表6 2005年9月～11月の3か月間の平均気温、降水量及び日照時間

	気 温 ()	平年差 ()	階 級	降水量 (mm)	平年比 (%)	階 級	日照時間 (h)	平年比 (%)	階 級
那 覇	25.7	+1.1		172.0	35		500.0	103	0
久米島	25.7	+1.2		198.0	44		534.1	112	+
宮古島	25.8	+1.0		255.0	49		507.1	112	+
石垣島	26.3	+0.9		450.0	79	-	521.1	110	+
与那国島	25.7	+0.8		614.5	85	0	463.8	113	+
南大東島	25.7	+0.6	+	514.5	121	+	548.7	103	0
沖縄地方		+1.0			58%			110%	+

³ 台風の沖縄県への接近とは、台風が中心が那覇、名護、久米島、南大東島、宮古島、石垣島、西表島及び与那国島のいずれかの気象官署等から300km以内を通過することをいう。

3. 梅雨

梅雨入り：5月2日ごろ（平年5月8日ごろ、昨年5月5日ごろ）

梅雨明け：6月27日ごろ（平年6月23日ごろ、昨年6月23日ごろ）

【特徴】

沖縄の梅雨入りは早く、梅雨明けは遅かった。降水量は後半にかなり多かった。日照時間は少なく、後半にはかなり少なかった。

5月は梅雨前線が近海に停滞することが多く曇りや雨の日が多かった。6月は梅雨前線の影響で曇りや雨の日が多く、中旬と下旬は梅雨前線の活動が活発となって記録的な多雨となった。

各地の梅雨期間（5月2日～6月27日）及び5月～6月の2か月間の降水量は次のとおりである。

表7 2005年の梅雨期間及び5月～6月の2か月間の降水量

地点	梅雨期間 (5月2日～6月27日)	5月～6月(2か月間)		
	降水量(mm)	降水量(mm)	平年比(%)	平年値(mm)
那覇	1033.5	1036.0	233	445.4
久米島	927.5	927.5	180	515.4
宮古島	571.0	572.5	148	386.1
石垣島	712.5	721.0	177	407.1
与那国島	458.5	464.5	116	401.7
南大東島	242.5	242.5	65	374.8

4. 台風

今年の台風の発生数23個は、平年の26.7個より少ないが、沖縄県への接近数は8個（平年7.0個）で、平年よりも1個多かった。沖縄県へ接近した台風は、先島諸島へ進んだ台風（第5号、第9号、第13号、第15号、第19号）と大東島地方の東海上を北上した台風（第4号、第14号、第20号）に大別でき、沖縄本島地方に接近する台風は1個（台風第15号、久米島へ接近）であった。沖縄本島地方に接近する台風が少なかった要因としては、梅雨明け以降、太平洋高気圧の西への張り出しが平年に比べ強く、沖縄本島地方は高気圧に覆われ、先島諸島は高気圧の周辺部となるが多かったことが考えられる。

図1は台風の接近が多かった7月～10月の4か月間平均の500hPa面の高度を示した天気図である。また、図2は同じ期間に沖縄県へ接近した台風の経路図である。これらの図から、台風は太平洋高気圧の勢力範囲を示す5880mの等高度線に沿って先島諸島に接近したことがわかる。

このこともあって沖縄本島地方では台風の接近が少なく、7月以降少雨傾向が続いた。

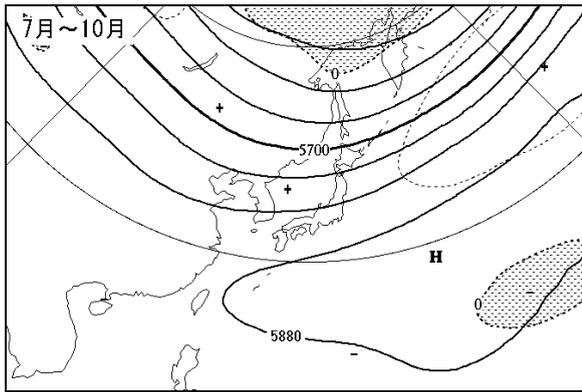


図1 7月～10月の4か月間平均の500hPa面の高度

等値線間隔は高度（実線）が60m、平年差（破線）が30mである。陰影部は高度が平年より低い領域を示している。

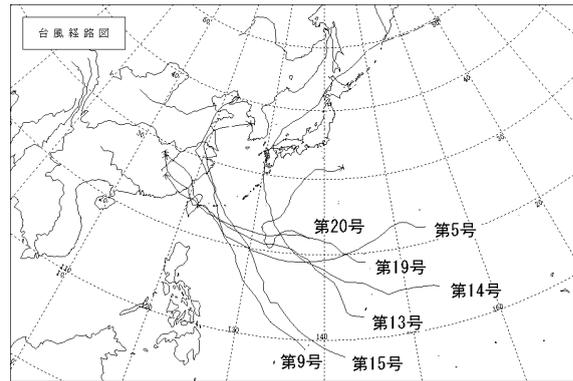


図2 7月～10月の4か月間に沖縄地方へ接近した台風の経路図

(1) 沖縄県へ接近した台風

- 6月（1個） 台風第4号
- 7月（1個） 台風第5号
- 8月（2個） 台風第9号、第13号⁴
- 9月（3個） 台風第13号⁴、第14号、第15号
- 10月（2個） 台風第19号、第20号

(2) 沖縄県に接近した主な台風の観測記録および気象概況

台風第9号

最低海面気圧	958.1hPa	石垣島	8月4日19時46分
最大風速	南南西の風 31.4m/s	石垣島	8月5日03時20分
最大瞬間風速	南南西の風 50.6m/s	石垣島	8月5日02時04分
期間降水量	336.0mm	宮古島	8月3日～5日

7月31日21時にフィリピンの東で発生した台風第9号は発達しながら北西に進み、8月3日には先島諸島が強風域に入り、4日に石垣島・宮古島・与那国島地方が暴風域に入った。

台風は勢力を保ちながら引き続き北北西へ進み、4日20時過ぎに石垣島を通過した後、東シナ海を北上して6日には中国大陸に上陸した。

⁴ 台風第13号は、8月31日から9月1日にかけて沖縄県へ接近したため、両月に加算した。

台風第13号

最低海面気圧	965.8hPa	与那国島	8月31日21時07分
最大風速	東の風 38.2m/s	与那国島	8月31日21時00分
最大瞬間風速	東の風 59.1m/s	石垣島	8月31日16時34分
期間降水量	195.5mm	西表島	8月31日～9月1日

8月27日09時にマリアナ諸島付近で発生した台風第13号は、発達しながら北西に進み、沖の鳥島付近から西北西へ向きを変えて沖縄の南方海上へ進んだ。30日には先島諸島と沖縄本島地方が台風の強風域に入り、31日には先島諸島が台風の暴風域に入った。

台風は「非常に強い」勢力のまま先島諸島の南海上を通過した後、9月1日に台湾へ上陸した。その後、台風はやや勢力を弱めて台湾海峡から華南へ上陸した。

台風第14号

最低海面気圧	936.8hPa	南大東島	9月4日15時05分
最大風速	西南西の風 32.8m/s	南大東島	9月4日19時20分
最大瞬間風速	西南西の風 55.6m/s	南大東島	9月4日20時32分
期間降水量	248.5mm	南大東島	9月3日～5日

8月29日21時にサイパン島の東で発生した台風第14号は、急速に発達しながら西北西へ進み、9月1日には台風の眼が明瞭となって、「大型で非常に強い」勢力となった。台風は1日から次第に進路を北西へ変えて進み、沖の鳥島の西海上を通過後、進路を北寄りへ変えた。

台風は4日夕方頃、南大東島の北北東海上を通過した。大東島地方では、台風の接近で激しい雨を伴い猛烈な風が吹き、台風の動きが遅かったことから長時間、暴風となった。その後、台風は6日に九州へ上陸した。

台風の強風半径が大きかったことから、大東島地方と沖縄本島地方及び先島諸島の一部にかけての広い地域が台風の強風域に入った。

台風第15号

最低海面気圧	978.2hPa	宮古島	9月10日17時28分
最大風速	南東の風 24.6m/s	宮古島	9月10日18時00分
最大瞬間風速	東南東の風 47.5m/s	宮古島	9月10日17時58分
期間降水量	111.0mm	宮古島	9月9日～11日

9月7日09時にフィリピンの東海上で発生した台風第15号は、発達しながら北西へ進み、10日には宮古島の南東海上へ進んだ。10日18時過ぎには、多良間島付近を通過した後、東シナ海へ進み、11日には華中に上陸した。

台風は、先島諸島へ接近した際の暴風半径が110kmと小さいものの、中心付近の最大風速が45m/sと非常に強く、強い雨域も中心周辺にまとまっていた。このため、暴風と雨は台風がかなり接近してから急に強くなった。

沖縄本島・宮古島・石垣島・与那国島地方が台風の強風域に入ったのは10日
日で、宮古島・石垣島地方では同日、暴風域に入った。

【参考資料】

表8 月平均気温・月降水量・月間日照時間の極値・順位値更新表

表9 日統計値に関する極値更新表

表10 ヒカンザクラの開花・満開の状況

図3 沖縄地方における旬平均気温の地域平均平年差の推移

図4 沖縄地方における旬降水量の地域平均平年比の推移

図5 沖縄地方における旬間日照時間の地域平均平年比の推移

表11 台風の月間（年間）発生数及び沖縄地方への月間（年間）接近数とその平年値

図6 沖縄地方における年平均気温の地域平均平年差の経年変化

図7 沖縄地方における年降水量の地域平均平年比の経年変化

図8 台風の年間発生数と沖縄地方への年間接近数の経年変化

表 8 月平均気温・月降水量・月間日照時間の極値・順位値更新表

(各地点での歴代3位まで、“*”はタイ記録を示す)

月平均気温の高い方からの極値・順位値更新

	順位	地点名	平均気温	平年差	これまでの最高 (西暦年)	月平均気温 の統計開始	平年値
9月	2位	名護	27.9*	+0.8	28.2 (2003)	1973年4月	27.1
	2位	久米島	28.1	+1.1	28.5 (2003)	1958年7月	27.0
	2位	西表島	27.8*	+0.9	28.2 (2003)	1954年2月	26.9
	3位	那覇	28.2	+1.0	28.5 (2003)	1927年6月	27.2
10月	2位	久米島	26.1	+1.3	26.3 (1998)	1958年7月	24.8
	3位	那覇	26.2*	+1.3	26.7 (1998)	1927年6月	24.9
	3位	名護	25.7	+1.0	26.3 (1998)	1973年4月	24.7
	3位	南大東島	26.5	+1.2	27.0 (1998)	1947年1月	25.3

月平均気温の低い方からの極値・順位値更新

	順位	地点名	平均気温	平年差	これまでの最低 (西暦年)	月平均気温 の統計開始	平年値
3月	1位	西表島	18.1	-2.1	18.5 (1986)	1954年2月	20.2
	1位	与那国島	18.3	-2.0	18.6 (1970)	1956年11月	20.3
	2位	名護	16.5*	-1.9	16.1 (1986)	1973年4月	18.4
	2位	宮古島	17.8	-1.9	16.9 (1944)	1938年1月	19.7
	3位	久米島	16.8*	-1.8	16.6 (1970)	1958年7月	18.6

月降水量の多い方からの極値・順位値更新

	順位	地点名	降水量 mm	平年比 %	これまでの最大 mm (西暦年)	月降水量 の統計開始	平年値 mm
6月	1位	那覇	860.5	407	711.6 (1892)	1890年7月	211.6
	1位	名護	638.5	274	553.0 (1975)	1973年4月	232.8
	1位	西表島	625.0	353	521.5 (1995)	1954年2月	177.0
	2位	久米島	629.5	252	640.5 (1969)	1958年7月	249.7
7月	1位	与那国島	437.0	336	421.0 (1981)	1956年11月	129.9
	3位	西表島	432.0	256	518.0 (1972)	1954年2月	169.0

月降水量の少ない方からの極値・順位値更新

	順位	地点名	降水量 mm	平年比 %	これまでの最小 mm (西暦年)	月降水量 の統計開始	平年値 mm
7月	1位	那覇	6.5	4	10.3 (1948)	1890年7月	176.1
	1位	久米島	0.0	0	4.5 (1994)	1958年7月	138.1
	1位	南大東島	7.0	5	9.0 (1986)	1947年1月	135.8
	2位	名護	9.5	5	6.0 (1988)	1973年4月	173.1
8月	1位	名護	59.5	21	60.5 (1993)	1973年4月	278.0
10月	3位	南大東島	30.0	17	14.0 (1989)	1947年1月	179.0

月間日照時間の多い方からの極値・順位値更新

	順位	地点名	日照時間 h	平年比 %	これまでの最大 h (西暦年)	月間日照時間 の統計開始	平年値 h
9月	1位	西表島	235.6	141	227.4 (1983)	1958年8月	167.3
	3位	久米島	245.5	120	247.8 (1984)	1958年7月	203.9
10月	3位	名護	194.2	111	235.2 (1977)	1973年4月	175.0

月間日照時間の少ない方からの極値・順位値更新

	順位	地点名	日照時間 h	平年比 %	これまでの最小 h (西暦年)	月間日照時間 の統計開始	平年値 h
1月	3位	与那国島	24.0*	45	17.3 (1973)	1957年1月	53.7
2月	2位	名護	42.9	52	35.5 (2000)	1973年4月	82.9
	2位	久米島	32.1	45	29.1 (2000)	1958年7月	71.9
6月	2位	名護	107.6	67	92.6 (1982)	1973年4月	161.7
12月	3位	名護	78.4	63	42.4 (1974)	1973年4月	123.7

表9 日統計値に関する極値更新表（“*”はタイ記録を示す。）

	地点名	対象項目	観測値	観測日	項目別 統計開始
2月	那覇	日最低気温の高い方から()	22.1	2月16日	1927年6月
	名護	日最低気温の高い方から()	22.7	2月16日	1967年1月
	久米島	日最高気温の高い方から()	26.6	2月16日	1958年7月
	久米島	日最低気温の高い方から()	22.6	2月16日	1958年7月
	宮古島	日最低気温の高い方から()	22.1*	2月16日	1938年1月
	宮古島	日最大10分間降水量(mm)	20.5	2月18日	1940年1月
3月	久米島	日最大瞬間風速(16方位、m/s)	北北東 23.1	3月3日	1958年7月
6月	与那国島	日最大1時間降水量(mm)	97.5	6月23日	1956年11月
	久米島	日最高気温の高い方から()	34.1	7月31日	1958年7月
7月	西表島	日降水量(mm)	335.0	7月18日	1954年2月
	与那国島	日降水量(mm)	231.5	7月18日	1956年11月
8月	南大東島	日最低気温の高い方から()	28.8*	8月30日	1947年1月
9月	南大東島	日最大瞬間風速(16方位、m/s)	西南西 55.6	9月4日	1947年1月
	南大東島	日最低海面気圧(hPa)	936.8	9月4日	1942年2月
10月	那覇	日最高気温の高い方から()	32.1	10月5日	1927年6月
	那覇	日最低気温の高い方から()	27.4	10月1日	1927年6月
	名護	日最高気温の高い方から()	33.0	10月5日	1967年1月
	名護	日最低気温の高い方から()	27.3	10月2日	1967年1月
	久米島	日最高気温の高い方から()	31.9	10月2日	1958年7月
	久米島	日最低気温の高い方から()	27.6	10月1日	1958年7月
11月	宮古島	日最低気温の高い方から()	27.0	10月2日	1938年1月
	久米島	日最高気温の高い方から()	29.9*	11月6日	1958年7月
12月	与那国島	日最高気温の高い方から()	29.8	11月11日	1956年11月
	名護	日最高気温の低い方から()	12.0	12月22日	1967年1月
	南大東島	日最高気温の低い方から()	15.2*	12月22日	1947年1月

表10 2005年のヒカンザクラの開花・満開の状況

地点名	開花日	平年	平年差	満開日	平年	平年差
那覇	1月19日	1月19日	同じ	2月14日	2月4日	10日遅い
南大東島	2月3日	1月19日	15日遅い	2月18日	2月1日	17日遅い
宮古島	1月29日	1月18日	11日遅い	2月16日	2月9日	7日遅い
石垣島	1月7日	1月15日	8日早い	2月7日	2月4日	3日遅い
与那国島	2月5日	1月31日	5日遅い	2月15日	2月18日	3日早い

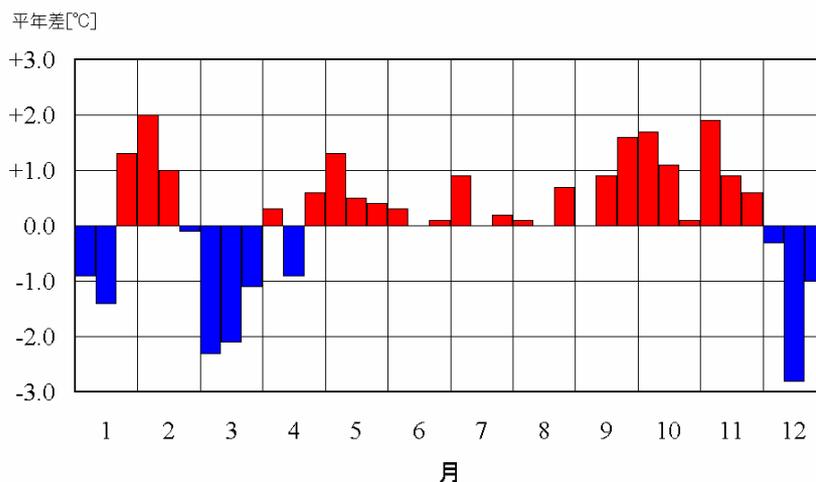


図3 2005年の沖縄地方における旬平均気温の地域平均平年差の推移
同一の月にある3本の棒グラフは左から順に上旬、中旬、下旬の地域平均平年差を表している。

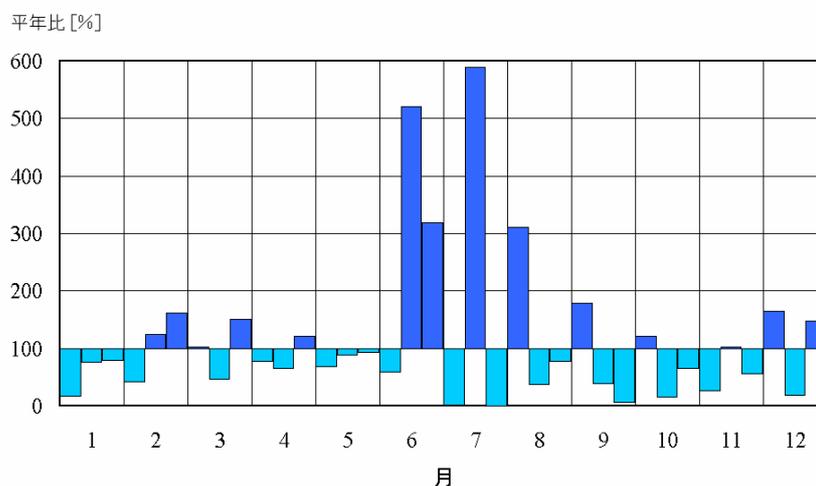


図4 2005年の沖縄地方における旬降水量の地域平均平年比の推移
同一の月にある3本の棒グラフは左から順に上旬、中旬、下旬の地域平均平年比を表している。

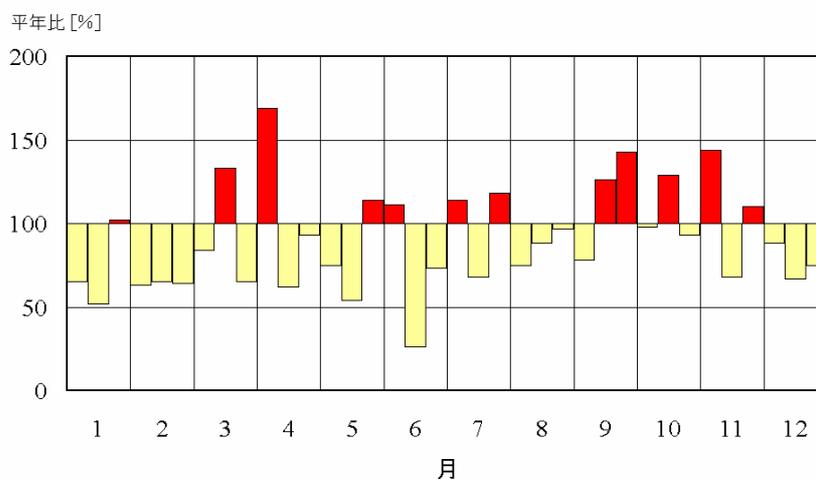


図5 2005年の沖縄地方における旬間日照時間の地域平均平年比の推移
同一の月にある3本の棒グラフは左から順に上旬、中旬、下旬の地域平均平年比を表している。

表11 2005年の台風の月間（年間）発生数及び沖縄地方への月間（年間）接近数とその平年値

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年間
台風発生数	1	0	1	1	1	0	5	5	5	2	2	0	23
(平年値)	(0.5)	(0.1)	(0.4)	(0.8)	(1.0)	(1.7)	(4.1)	(5.5)	(5.1)	(3.9)	(2.5)	(1.3)	(26.7)
台風接近数	0	0	0	0	0	1	1	2	3	2	0	0	8
(平年値)	(-)	(-)	(-)	(0.0)	(0.3)	(0.6)	(1.5)	(2.3)	(1.4)	(0.8)	(0.5)	(0.0)	(7.0)

注：計算過程に四捨五入を含むため、月の平年値の合計と年の平年値は一致しない。また、1個の台風が複数の月にまたがって接近する場合があるため、1月～12月の接近数の合計と年間接近数は一致しない。

1月～3月の月間接近数の平年値にある“-”は、平年値の統計期間（1971年～2000年の30年間）に台風の接近が1個もなかったことを示す。

沖縄地方の平均気温と降水量及び台風の発生数と接近数の経年変化

1. 年平均気温

2005年の沖縄地方における年平均気温の地域平均平年差は+0.2 で「高い」となった。年別の変化傾向（緑色の棒グラフ）を見ると1980年代の中頃までは「低い」年が多かったが、その後は「高い」年が多くなっている。5年移動平均（赤色の実線）を見ると1970年代の中頃以降の昇温傾向が顕著である。1928年の統計開始以降の長期変化傾向（黒色の実線）としては70年間に約1.0 の割合で上昇している（図6）。

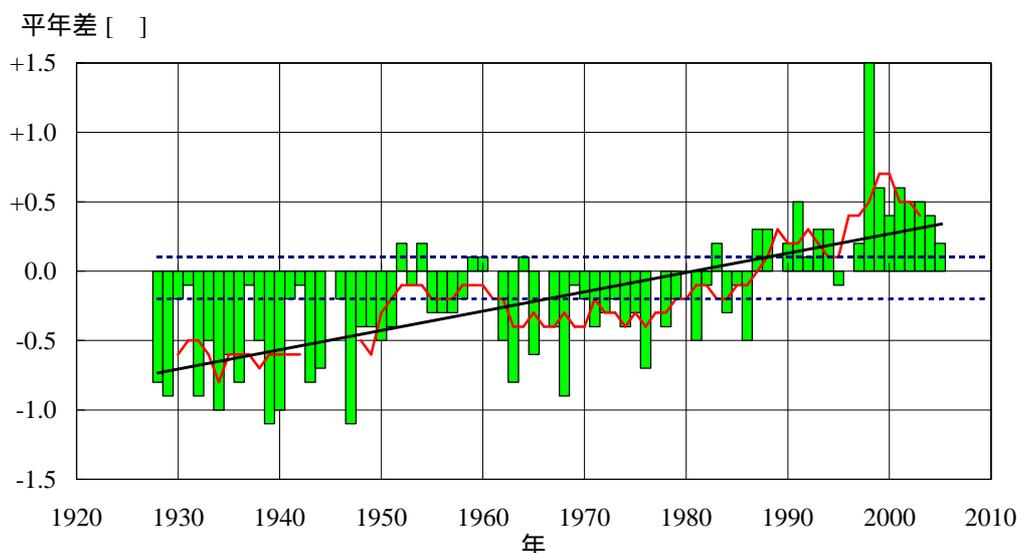


図6 沖縄地方における年平均気温の地域平均平年差の経年変化

[1928年～1944年及び1946年～2005年の77年間]

横軸は西暦[年]、縦軸は沖縄地方における年平均気温の地域平均平年差[]を示す。

緑色の棒グラフは各年の統計値、赤色の実線は各年の統計値の5年移動平均値、黒色の実線は各年の統計値の長期変化傾向、紺色の点線は平年並の下限（-0.2）と上限（+0.1）を示す。

【注】

沖縄地方の平均気温・降水量等の気象要素の地域平均平年差（比）は、那覇、久米島、宮古島、石垣島及び与那国島の5地点のうち2地点以上で観測値が存在する期間についてのみ地域平均を算出している。

2. 年降水量

2005年の沖縄地方における年降水量の地域平均平年比は104%で「平年並」となった。年別の変化傾向（水色の棒グラフ）を見ると1960年頃までは100%を上回る年が多かった。5年移動平均（赤色の実線）を見ると1920年代の中頃から1960年代のはじめにかけては、15年～20年周期の変動が見られる。1970年以降は年々の変動が大きく、数年毎に極端な多雨や少雨となっている。

なお、1897年の統計開始以降の長期変化傾向（黒色の実線）としては100年間に約8%の割合で減少している（図7）。

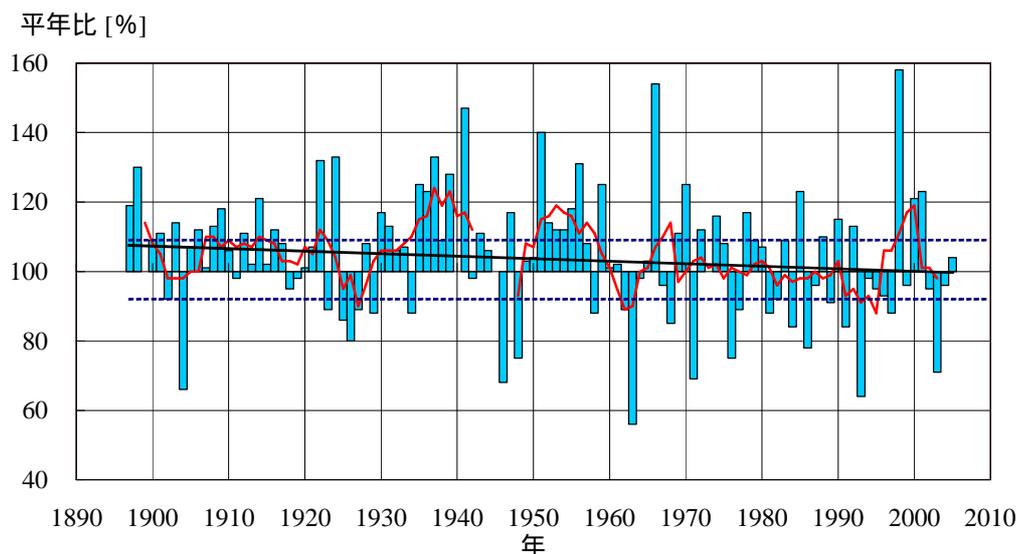


図7 沖縄地方における年降水量の地域平均平年比の経年変化

[1897年～1944年及び1946年～2005年の108年間]

横軸は西暦 [年]、縦軸は沖縄地方の降水量の地域平均平年比 [%] を示す。

水色の棒グラフは各年の統計値、赤色の実線は各年の統計値の5年移動平均値、黒色の実線は各年の統計値の長期変化傾向、紺色の点線は平年並の下限（92%）と上限（109%）を示す。

3. 台風の年間発生数と沖縄地方への年間接近数

2005年の台風の年間発生数(赤色の細い実線)を見ると23個で平年値を下回った。発生数の5年移動平均(赤色の太い実線)を見ると20数年程度の周期を持つ変動が見られるが、長期変化傾向は見られない(図8の赤色)。

2005年の台風の年間接近数(紺色の細い実線)を見ると8個で平年値に近かった。接近数の5年移動平均(紺色の太い実線)を見ると年々の変動はあるものの変化傾向は見られない(図8の紺色)。

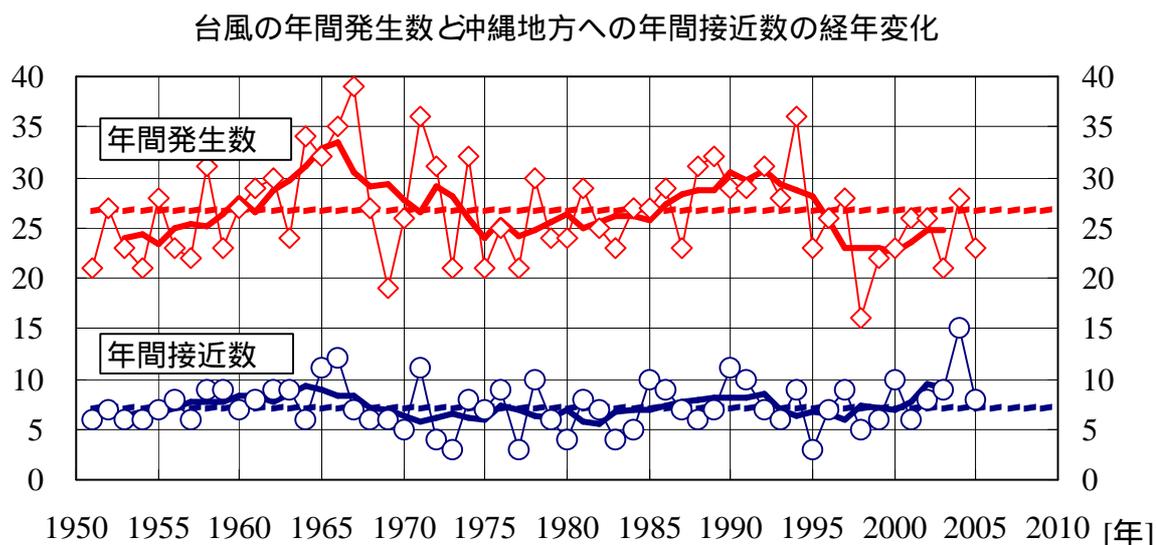


図8 台風の年間発生数と沖縄地方への年間接近数の経年変化 [1951年～2005年の55年間]

横軸は西暦 [年]、縦軸は発生数及び沖縄地方への接近数を示す。

赤色の菱形がついた細い実線は年間発生数、赤色の太い実線は年間発生数の5年移動平均値、赤色の点線は年間発生数の平年値 (26.7個) を示す。また、紺色の丸印がついた細い実線は沖縄地方への年間接近数、紺色の太い実線は沖縄地方への年間接近数の5年移動平均値、紺色の点線は沖縄地方への年間接近数の平年値 (7.0個) を示す。